



おおぞら

第211号

2022年11月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

施設における特定看護師の役割

おおぞら3号館課長 元木実希

聖隷三方原病院は、2020年4月から特定行為研修を開始し、18名の特定看護師がいます。その中で聖隷おおぞら療育センター（以下、おおぞら）には4名の特定看護師がいます。

日本は2025年に超高齢化社会を迎えます。国は今後の入院医療のあり方の見直しと在宅医療の推進をしています。その中で医療従事者が、高い専門性を発揮しながら互いに連携して、患者の状態変化に応じた適切な医療を提供する「チーム医療」を推進しています。それにより、医療従事者の業務の範囲及び業務の実施体制の見直しがされ、特定看護師が誕生しました。

看護師の業務は、保健師助産師看護師法によって「療養上の世話又は診療の補助」と定められています。医師による診療は、医師のみしか実施できない「絶対的医行為」と、看護師が「診療の補助」として実施することができる「相対的医行為」に分類されます。相対的医行為のうち高レベルな行為を明確に区別し、「特定行為」として位置付けました。その特定行為とは、気管カニューレの交換や胃瘻カテーテルの交換などの21区分38行為です。この行為を実践するための必要な高度知識と技術を指定機関で学び、修了認定を受けた看護師を特定看護師といえます。特定看護師とそうではない看護師では、行うことのできる診療の補助（医療行為）が大きく異なります。特定看護師は難易度の高い診療の補助業務を、医師が作成する「手順書」のもとに実践する事が出来ます。これにより、タイムリーに利用者の症状に合わせて適切な処置ができるようになります。

現在特定看護師は、利用者の気管カニューレの交換を手順書に基づき実施しています。利用者は呼吸障害に加え、体の変形・拘縮などがありません。また、筋緊張状態が日々変化するため、内服薬で調整しています。それぞれの利用者の特徴に応じて、その日の様子を入所ゾーンの看護師と相談し、交換のタイミングや気管カニューレの挿入する向き・位置などに注意して実施しています。また、これまでは医師の回診のタイミングで交換を実施していましたが、その後に入浴があると、2回ガーゼや脇ひもの交換などの処置を行うことになりました。筋緊張ある利用者の中には、その処置が筋緊張につながる負担となる利用者も



おおぞらの特定看護師4名です

化を捉え、タイムリーにかつ適切に対応できることがとても大切であると考えています。

現在特定看護師は、利用者の気管カニューレの交換を手順書に基づき実施しています。利用者は呼吸障害に加え、体の変形・拘縮などがありません。また、筋緊張状態が日々変化するため、内服薬で調整しています。それぞれの利用者の特徴に応じて、その日の様子を入所ゾーンの看護師と相談し、交換のタイミングや気管カニューレの挿入する向き・位置などに注意して実施しています。また、これまでは医師の回診のタイミングで交換を実施していましたが、その後に入浴があると、2回ガーゼや脇ひもの交換などの処置を行うことになりました。筋緊張ある利用者の中には、その処置が筋緊張につながる負担となる利用者も

いました。利用者の生活にあわせて処置を行えるようになったことで、負担となる処置回数を減らすことができています。ほんの些細な事かもしれませんが、苦痛をできるだけ少なく安全に過ごせる事に繋がっていると考えています。

今後、新たな特定看護師や実施する特定行為を増やし、看護師の力を最大限活かして、利用者の生活を支えていきたいと思えます。

ほのかの 日常活動

村上 龍

Aさんは、職員が声をかけたりに触れたりすると、その声や触れたことに意識が向いて目や舌を動かしながら声や触れられたことを感じていきます。

日常活動で行った『おはようさん』という本の語りかけでは、「チューチュー」などの擬音語の後に「おはようさん」という言葉がページをめくる毎に繰り返されると、擬音語のところでは舌の動きが少なくなり「おはようさん」の言葉の後で舌をよく動かして聴いていました。リズムミカルな擬音語のフレーズを感じながら聞き、擬音語の後に短い言葉があるフレーズの繰り返しを感じていました。

していることがあります。「だあれ」と語尾が上がるところはで少し顔が動くこともありました。物語の終わり頃に「すっぱおーん」とそれまでの「すっぱーん」よりも勢いのある擬音語が入ると、舌をよく動かして他の語りとは少し違った聴き方をしていました。「やさいさん、やさいさん」という同じリズムの短いフレーズが繰り返されたり「やさいさん、やさいさん、だあれ」という滑らかなリズムのフレーズの後に「すっぱーん」という勢いのあるフレーズがあることでより集中して聞いていました。本の語りかけの活動はどれも最後まで集中して聞いている様子がみられました。



『とけいのうた』を歌いかけただけと、歌いかけとリズムをとるように手に触れることを繰り返す行くと、歌いかけとリズムをとるように手に触れているタイミングで始まった目の周りに力が入る様子があり、舌もよく動かして聴いていました。手に触れずに歌いかけだけのときでも同じような様子がみられることがありました。歌いかけのみ時では、何度か繰り返し行っていると1回目に手に触れながら行った時よりも、2回目、3回目と回数が増えることで目の周りが小刻みに動き舌の動きも少し速くなっていて、始めよりもより集中して聴いている様子が見られました。歌いかけと手に触れられることを感じ、歌いかけと触れられるリズムが同じリズムで繰り返されることで、より歌いかけと触れられることを感じていました。

日常活動を通して、日常の中ではあまりみられないAさんの表出がいくつもみられています。今後も日常生活や生活の中の関わりなどで、Aさんが心地良いと思える時間を大切にしていきたいです。

あさひ音楽会

北野 のぞみ

春先に通所あさひの各グループでスタッフによる出前コンサートを行いました。各グループに職員が出向き少人数制で行いました。曲目は、「大切なもの」「おおシャンゼリゼ」をパート別に分かれ、合唱を披露しています。利用者の方に、合唱があることを、昼休みに伝えると、笑顔になりワクワクして始まるのを待つ方、歌が始まると、歌い出した職員にじっと視線を送り続ける方、ふわーっと表情を緩ませ楽しそうに聞く方、一緒に口ずさむ方。中にはちょっと緊張し固まる方など普段とは違う雰囲気になんか表情が見られました。また、「大切なもの」のゆったりとした曲には、優しい声をだし「おおシャンゼリゼ」などリズムミカルな曲には大きな声を出すなど曲調によって歌声をかえる姿が見られるなど、それぞれが楽しんでいる様子が見られました。活動とは違い、何人も声が合わさり違う箇



所から聞こえてくる歌声も新鮮に感じたのかも知れません。

また6月にも、演奏できる職員でマリンバキーボードによる出前コンサートを行いました。曲目は「小さな世界」「上を向いて歩こう」を披露しました。「今！すぐ○○さんの表情が良いいよ。弾いたらどんな表情をするかな。」とその場の職員の声から始まり、弾ける職員に声をかけその日に実現しました。時間にしたら10分弱の短い時間でしたが、普段聞かない音色に真剣に耳を傾け柔らかな表情が沢山見られました。なかなか大勢で集まってやることは難しく出来る事も限られています。その中でも日常の短い時間でも楽しめ出来ることを探して行けたらなと考えています。



リレーエッセイ

「体験する楽しさ」

ひかりの子 太田千鶴

小さい頃から両親に色々な場所に連れてってもらった影響からか、出掛けることが好きで色々な場所を観光したり、四季折々を楽しんだり、体を動かしたりしていました。子どもが出来たら私も色々な場所に連れて行っていろんな体験をさせてあげたいなと思っていました。しかし、子どもが産まれると共にコロナ感染が流行し出掛けることが難しくなっていました。そんな中でも、近所を散歩し花や虫を見つけ四季を感じたり、車で行けばすぐの公園に電車に乗って行ってみたい、子どものリクエストに応え工事現場や家の近くの牧場に牛を見に行ったりと何時間も夢中で遠くに行かないと体験できないこと、見られない景色もありですが、近くでもこうして発見できること学ぶことがたくさんあるんだと

おおぞら食事紹介

9月の食育献立は椎茸などのきのこを使用した

「きのこの和風カレー」でした。



秋の椎茸は張りがあり香りが豊かです。だし汁にも利用されるようにうまみがたっぷり含まれており、食物繊維も豊富です。



今回は旬のきのこを食べやすいように細かくきざみ、和風に仕上げたうまみたっぷりのカレーに仕上げました。

子どもに教えてもらった気がします。子どもも少し大きくなり、行ったこと、したこと覚えていて「あそこにもた行きたい」「またこれしてみたい」「こんなことしたね」と話してくれたり、子どもが自分で体験したことが遊びに広がったりしているとなんだか嬉しく一緒に体験できて良かったなと



感じる日々です。これからも、感染に気を付けながらも色々な体験を子どもとしていきます。



	7月	8月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	4人 (10日)	6人 (14日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	17人 (51日)	16人 (123日)
実習者数 (グループ数)	2人 (1グループ)	2人 (1グループ)

台風15号の影響について(道路通行止め)ご報告

9月23日に台風15号「タラス」が発生し東海地方に接近しました。この台風は暴風域を伴わない小規模なもので、翌24日には温帯低気圧になった為、全国的なニュースには上がりませんでした。気象庁が「記録的短時間大雨情報」を発表するほどの猛烈な雨を静岡県内各地にもたらしました。

浜松市でも、夕刻から一部地域で避難指示が出ていましたが、23時過ぎに大雨危険度の最も高い「警戒レベル5」を発表し、市民40万9千人に避難勧告が出されました。

当施設は幸いなことに、建物や設備に大きな影響はなく過ごせましたが、施設外周の道路沿いを流れる「和地大谷川」支流の護岸ブロックが崩れ、道路が一部崩落していた事が判明し、急遽26日夜間から車両通行止めになってしまいました。工事は復旧方法などの検討を要す影響もあって、現在のところ通行止め解除の目処は立っていません。

当施設にお越しの皆様にはご不便をお掛けしますが、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

★ 聖隷おおぞら療育センター1号館 / 外来診療 / リハビリテーション / 障害福祉通所サービス(あさひ / ひかりの子)をご利用の皆様へ ★

<施設西側から進入する場合>

北側から大きく迂回して頂く必要があります。(敷地内は通行禁止です)
お車のナビゲーション等でご確認をお願いします。

<施設東側から進入する場合>

通行止め表示は出ていますが、正面玄関駐車場までの出入りは可能です。

(2号館・3号館の周辺道路には支障ありません)

